

# ストップ・ざ・がんの会だより

Vol. 24 2018. 6

発行：NPO法人ストップ・ざ・がんの会 〈代〉092-762-3010  
事務局：福岡市中央区天神2-13-7福岡平和ビル3階（公財）福岡県すこやか健康事業団



## 時は流れても為すべきこと

理事長 下田八須子

「初心忘るべからず」。昨年9月「日本対がん協会全国大会 in 金沢」で「日本対がん協会賞団体賞」を戴いたとき、14年前に当会が発足して以来の活動状況が走馬灯の如く浮かびました。初めて会った人達と今日まで当会の事業を展開してこられたのは、会員同志のたゆまぬ活動が源泉です。深く感謝しています。「沿革史」の作成、広報紙「がんの会だより」の定期的発行など堂々と胸を張って事業に対する取り組みを主張できるようになりました。

国のがん対策基本法に基づき、がん死を防ぐため健康な時にがん検診受診を！と出前講座を実施しています。しかし、受診率50%にはなかなか届いていません。がんに罹る人が増加、医療費もかさむのが現状です。国は学校教育のカリキュラムの中に「がん教育」を取り入れ数年が経過しています。十数年前、西区の小学校高学年担当の先生から「がんに関する話しをしてほしい」と申し出があり出前講座を実施したことがありました。今思えば、時代を先取りした先生に感謝しつつ、彼等は大学生か社会人（？）、当時の講座の記憶はあるだろうか。

高齢化、少子化が年々加速化している中で、子どもと共に先ずは家庭の日常生活習慣の中から身体を大切に、がん検診受診年齢がきたら1年に1回又は2年に1回、家族の中に受診が浸透していくことを推奨しています。

## 平成30年度通常総会報告

平成30年度通常総会は、5月22日（火）13時30分から14時20分まで（公財）福岡県すこやか健康事業団学術研究センター会議室で開催しました。司会者から、正会員総数26名中、出席者数19名（出席者14名、委任状5名）で総会成立要件を満たしたので開会する旨の宣言があり、開会。議長に内藤氏を選出、議事録記録者に堀川氏、扇氏を選出、議事の審議に入りました。

議案は(1)平成29年度事業報告書(2)平成29年度活動計算書報告(3)平成29年度会計監査報告(4)平成30年度活動方針（案）(5)平成30年度事業計画（案）(6)平成30年度活動計算書（案）(7)その他（特に提案はなかった）(8)総会議事録署名人に堀川氏、扇氏の選任が提案された。審議の結果、全議案とも全会一致をもって承認されました。諸事情にて総会に出席できなかった正会員の方々には、総会資料を郵送でお届けしました。（高嶋）

## 第17回自主講演会のご案内

日時：平成30年6月23日（土） 13時30分～15時50分  
会場：福岡市市民福祉プラザ601研修室（地下鉄唐人町駅下車徒歩8分）  
演題：寸劇「がん普及促進会議」NPO法人ストップ・ざ・がんの会会員

講演 「最新の乳癌診断と治療」

講師 医療法人社団広仁会 広瀬病院 院長 古賀稔啓 先生

\*\*\*（入場無料、定員150名。参加ご希望、お問合わせはTEL 092-762-3010まで）\*\*\*



（アマリリス）

## 「がん講演会」を開催します

～がんの知識や検診の必要性・がんになりやすい食生活など～

がん講演会は、第1回目は6月23日（土）第17回講演会を本誌左下に記載のとおり開催します。第2回目、7月21日（土）開催場所：（公財）福岡県すこやか健康事業団学術研究センター会議室（天神2-13-7福岡平和ビル3階）

講師①：五十嵐久人 先生（九州大学第三内科出身）「脾臓と脾がんについて」

講師②：宮原典子 保健師 「当会の活動を始めた経過」

第3回目、8月4日（土）場所：第2回目の開催場所と同じ所。

講師①：池田晶子 保健師（前記事業団学術研究推進室長）「がん検診について」

講師②：「あけぼの福岡」代表 深野百合子 氏 「がんと向きあって生きる」



金層川の白鷺

《出前講座》5月29日（火）福岡市奈良屋公民館（博多区奈良屋町1-6）13:30～15:00 来館者18人  
寸劇「買い物編」を会員で上演。保健師：池田晶子 氏「今日の検しん明日の安しん」と題しての講演。

～今後の公民館活動予定～

★8月6日（月）福岡市箱崎公民館（東区箱崎1-27-17）10:00～12:00

★8月17日（金）福岡市賀茂公民館（早良区賀茂1丁目33-7）10:00～11:30



池田保健師の講話

## 「博多どんたく港まつり」パレードに参加

博多どんたく港まつりは、1179年（治承3年）今から839年前に始まったとされる伝統的な民族行事です。1962年（昭和37年）に市民参加の福岡市民祭りとなって今年で57回目を迎えます。我がストップ・ざ・がんの会も、がんバツテン元気隊の一員として毎年参加させて頂いております。今年は会員9名が参加しました。行進では風が強くのぼり旗や横断幕が風に持って行かれそうになりましたが、沿道の見物者からの声援に皆元気に手を振って応え、青空の下皆元気に行進を終えることができました。（田中）



パレードの様子

## ～がん知識を得よう～ 今回は日本経済新聞夕刊/毎週水曜日「くらしナビ」面に「がん社会を診る」と題して、東京大学病院准教授中川恵一先生の連載記事が参考になることを少々。中川先生は平成26年9月5日（金）アクロス福岡で「がん征臣全国大会」が開催された際、俳優の菅原文太さんと対談された。菅原文太さんは74歳のとき「膀胱がん」と診断され中川准教授から陽子線治療をしている大学病院を紹介され治療を継続中、81歳の時「転移性肝がんによる肝不全」で死去された。対談の際、菅原文太さんは『「がん」を患ったらもう終わりとか思わずプラス思考でいきましょう。私なんか93歳くらいまで生きるかなと勝手に思っている。』と語っておられた。中川先生の「がん社会を診る」の連載記事では、「生活習慣＋がん検診」が「がん」から身を守るための特効薬だとも書いてあった。この連載記事からがんに関する知識を得られることはありがたいことである。（高嶋）

～がん知識を得よう～ 今回は日本経済新聞夕刊/毎週水曜日「くらしナビ」面に「がん社会を診る」と題して、東京大学病院准教授中川恵一先生の連載記事が参考になることを少々。中川先生は平成26年9月5日（金）アクロス福岡で「がん征臣全国大会」が開催された際、俳優の菅原文太さんと対談された。菅原文太さんは74歳のとき「膀胱がん」と診断され中川准教授から陽子線治療をしている大学病院を紹介され治療を継続中、81歳の時「転移性肝がんによる肝不全」で死去された。対談の際、菅原文太さんは『「がん」を患ったらもう終わりとか思わずプラス思考でいきましょう。私なんか93歳くらいまで生きるかなと勝手に思っている。』と語っておられた。中川先生の「がん社会を診る」の連載記事では、「生活習慣＋がん検診」が「がん」から身を守るための特効薬だとも書いてあった。この連載記事からがんに関する知識を得られることはありがたいことである。（高嶋）

### 川柳

急展開米韓朝の政情ショウ  
トランプに振り回されてオイル高  
ガソリンの値上り本はトランプだ  
トランプ全自作自演の政情劇  
外交がヒットとなるか安倍総理  
（はこぎ）



ご寄付のお礼（30年2月～30年6月）  
匿名希望様  
誠に有難うございました。感謝申し上げます。

「ご寄付のお願い」  
NPO法人ストップ・ざ・がんの会は、がん検診の受診率向上を目指し啓発活動を行っています。活動にご賛同いただける方からのご寄付をお願い申し上げます。1口千円（何口でも結構です）  
振込先：ゆうちょ銀行 振替口座/記号01700-4 番号125067  
加入者名/特定非営利活動法人ストップ・ざ・がんの会

ストップ・ざ・がんの会ホームページ

ストップざがん

検索

<http://www.sukoken.or.jp/stopcancer/>

